



FNo. 9・1・0 (甲)
平成22年7月26日

秦野市水道審議会
会長 松下雅雄 様

秦野市長 古谷 義幸



水道料金のあり方について（諮問）

「はだの水道ビジョン」に掲げた将来像である「おいしい秦野の水をいつまでも」の実現に欠かせない経営基盤の強化、安定のため、水道料金のあり方について、次のとおり諮問します。

諮問理由及び内容

本市の水道事業は、明治23年に給水を始めた「曾屋区水道」から数え、今年、満120年を迎えました。この水道は、先人の安全な水への情熱から、全国で3番目の近代水道として生まれましたが、その思いを次世代に確実に引き継ぐことは、私たちの使命であると考えています。

しかし、今、本市の水道事業は、大変厳しい経営環境に置かれています。

景気低迷による企業活動の減速に、各家庭の節水型機器の普及などが加わり、21年度の水道料金収入は約19億6千万円と、20年度に比べて6.9%減収しました。それを要因として、20年度の約4,600万円を大きく上回る、約2億円の純損失、赤字決算となりました。

本市の水道は、昭和40年から50年代にかけて、各地域にあった小規模な水道を統合しながら、拡張を進めてきました。その時期は、多くの施設を整備したため、今、施設の老朽化や水道管の耐震化の遅れが目立っています。

「はだの水道ビジョン」では、「おいしい秦野の水をいつまでも」と、将来像を定めました。2年連続となった赤字決算の原因を解決し、安定した経営基盤のもと計画的に施設整備を進めていくことで、ライフラインを扱う事業体としての使命を果たしていかなければなりません。

水道施設の耐震化を進め、老朽化する水道施設を計画的・効率的に更新するという課題に対応するためには、経営基盤の安定と施設整備にかかる財源確保が必要です。

平成7年4月以来水道料金を据え置き、「安くておいしい水」を供給しようと、経営努力をしていますが、引き続き、ライフラインとしての使命を果たし、課題を解決していくには、厳しい財政事情にあります。

このため、将来を見据えた中、望ましい水道料金体系のあり方について、ご検討くださるようお願いいたします。